

# ウインターオーバーシード用品種の紹介と上手な利用方法

雪印種苗(株) 千葉研究農場

立花 正



## 1 はじめに

ウインターオーバーシードは、1930～1950年にアメリカ南部のゴルフ場で始まり、ティフトン芝に対して寒地型芝草を播種し、冬期も緑のコースでのプレーを実現させました。そのころからイタリアンライグラスやペレニアルライグラス、ケンタッキーブルーグラス等各種の草種がテストされ、最終的にターフ形成速度が早く、芝質が良いという点でペレニアルライグラスが優れているとの判断から、近年に至るまで主たる草種となっています。その後、この技術は日本でもゴルフ場を中心に試みられましたが、ベース芝がアメリカのようなトランジッション性のよいティフトン芝ではなく、生育の緩慢なノシバやコウライシバであったためトランジッションがうまく行かず、その普及に時間を要したと考えられます。しかし、Jリーグの開幕に合わせてそのグラウンドはエバーグリーン化が義務づけられたことから、寒地型芝草の普及と共にウインターオーバーシードも注目され、ゴルフ、サッカーはもとより競馬に至るまで、プレー性の向上のみならず、見た目にも美しくテレビ写りも良好な『冬期でも緑の芝生』が一般的となっています。

今回はそのウインターオーバーシードに使用される草種、品種の紹介と利用方法を紹介します。

## 2 ウインターオーバーシードとは

ウインターオーバーシードは暖地型芝草（ティフトン芝、ノシバ、コ

ウライシバ）をベース芝として、秋期に寒地型芝草（ペレニアルライグラス、イタリアンライグラス等）を播種することによって冬期間も『緑の芝生』とし、翌年の春から初夏に再び寒地型芝草から暖地型芝草に戻す（トランジッション）ことによって、1年を通してエバーグリーンを可能にする技術です（図1）。

この一連の技術の中で難しいのが春から初夏にかけて行うトランジッションであり、その成否を決める大きな要因は、暖地型芝草と寒地型芝草の生育特性を理解した管理をするということと草種、品種の選択が上げられます。

## 3 ウインターオーバーシードの目的と使用品種

エバーグリーンを目的としたウインターオーバーシードを行うに当たって重要なことは、その芝質と合わせてトランジッションをどの程度重視するかをはっきりさせることです。

トランジッションの重みづけには大別すると3つの考え方があり、そのいずれかによって使用する草種、品種が大きく異なり、ウインターオーバ

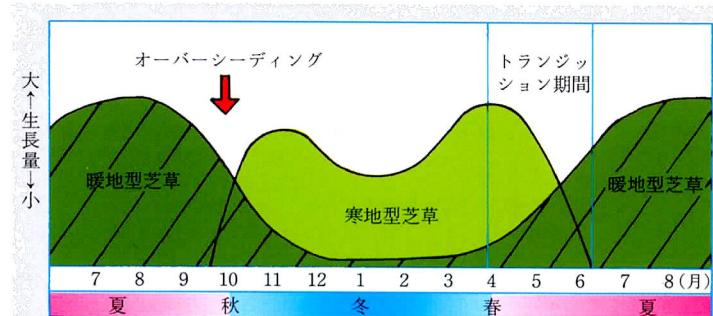


図1 ウインターオーバーシーディングの形態

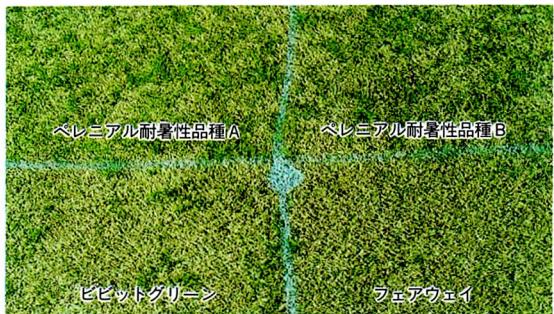


写真1 「ビビットグリーン」と「フェアウェイ」の越夏性の比較（越夏後、冬の残存状況）



写真2 トランジッションの状況

ーシードの成功の可否につながります。  
目的一① トランジッションを最重視するタイプ

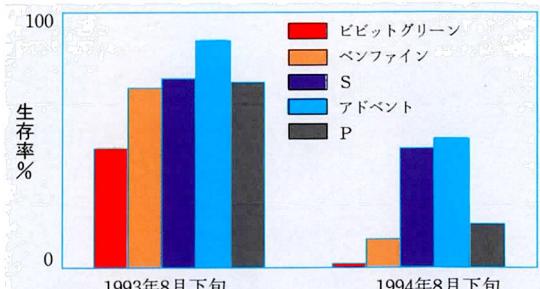
【使用品種】『フェアウェイ』(アニュアルライグラス),『サクラワセ』(イタリアンライグラス)

トランジッションが容易で、かつ、密度の低下等のベース芝への影響が一番少ない品種群です。特にアニュアルライグラス『フェアウェイ』はイタリアンライグラス『サクラワセ』に比較すると芝質も良く、トランジッションも良好であることから、ウインターオーバーシードに最適な品種といえます(写真1)。しかし、春から初夏にかけてトランジッションが急速に進むことから、この時期にターフクオリティの低下が著しいことがあります、以下に紹介する『ビビットグリーン』との混播によってこの問題は軽減されます(写真2)。『サクラワセ』は競馬場での使用が主となっています。

目的一② 芝質を重視したトランジッションを求めるタイプ

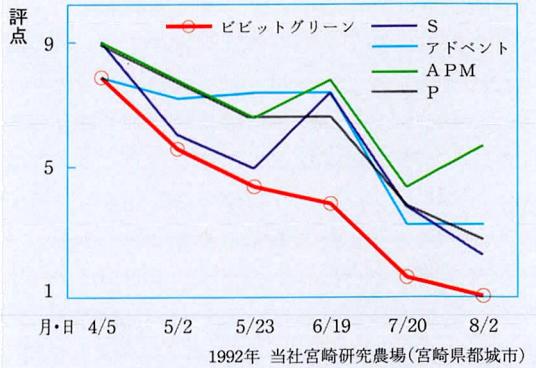
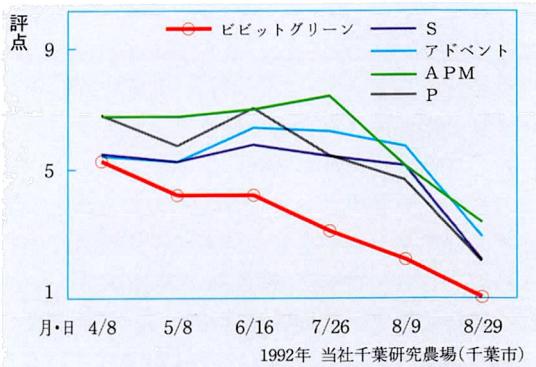
【使用品種】『ビビットグリーン』,『ペンファイン』(以上ペレニアルライグラス)

芝質を重視する目的において使用される草種



※1993年は記録的な冷夏であった。 当社千葉研究農場(千葉市)

図2 ペレニアルライグラス品種の越夏性の比較



評点：密度 高：9～1：低  
「ビビットグリーンは4月以降の密度の低下が速やかに進行します」

図3 ペレニアルライグラス品種の早春から夏にかけての密度の推移

は冒頭に述べたようにペレニアルライグラスとなります。しかし、近年開発(育種)され販売されるほとんどの品種は耐暑性、耐病性が向上し、越夏性が良好になる傾向にあり、このような品種をウインターオーバーシードに使用するとトランジッションがスムーズに行えない要因の一つとなります。そのような中、当社において開発し、昨年より本格販売している『ビビットグリーン』は従来使用してきた『ペンファイン』

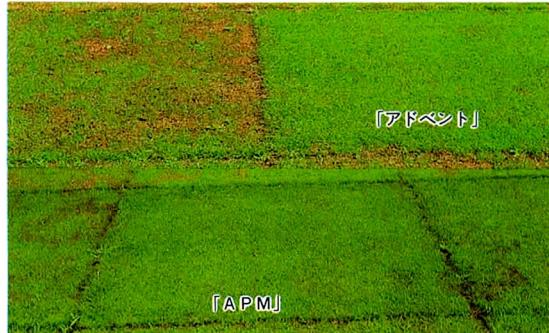


写真3 通年利用型に適する耐暑性品種

イン』に比較して、ペレニアルライグラスの芝質を失わず、トランジッション性の良い特性を持ち合わせたウインターオーバーシードに適した唯一の品種です(図2, 3及び写真1)。『ビビットグリーン』を使用することによって目的一②が達成され、さらに前述の『フェアウェイ』を混播することによって、さらにトランジッション性を向上させることができます。

### 目的③ トランジッションをしないタイプ(通年利用タイプ)

【使用品種】『アドベント』,『APM』(以上ペレニアルライグラス)

ベースの夏芝とのトランジッションを考えず、寒地型芝への切り替えをはかるケースでウインターオーバーシードとは異なりますが、このような目的の場合、耐暑性、耐病性の特性を持ち合わせた越夏性の良好な品種の使用が最適です。『アドベント』『APM』は耐暑性、耐病性に優れ、かつ、低刈特性の優れた品種であることから、ゴルフ場のティーグラウンドを始め、寒地型芝草利用のサッカー場等での利用に最適です(写真3)。

表1 使用場面別ウインターオーバーシード播種設計(案)

使用場面	播種量	使用品種及び混播例	備考
ゴルフ場	ティ	50~100g/m <sup>2</sup> アドベント、APM ビビットグリーン、フェアウェイ (例) ビビットグリーン×フェアウェイ	単播。芝質重視型 単播。通年利用型(春秋2回播種) 単播利用又は混播利用
	フェアウェイ	30~50g/m <sup>2</sup>	
サッカー場等の スポーツグラウンド	30~50g/m <sup>2</sup>	100% × 0% 70% × 30% 50% × 50% 30% × 70% 0% × 100%	単播。芝質重視型 混播。芝質重視のトランジッション型 混播。トランジッション・芝質中間型 混播。トランジッション重視の芝質型 単播。トランジッション重視型
		同上	

## 4 ウインターオーバーシードの実際

ウインターオーバーシードを成功させるために、当社販売品種での混播設計案(表1)を示します。

当社において、ウインターオーバーシードとは前項の目的一①, ②のようにトランジッションを十分行うことであると位置づけ、それを前提に『フェアウェイ』と『ビビットグリーン』を開発するに至ったことから、これらの品種を使用することによって、トランジッションをスムーズに行うことが可能であり、なによりベース芝への影響(密度の低下等)を最小限に抑えることができます。

## 5 おわりに

ウインターオーバーシードは、芝生栽培面積の拡大と合わせてエバーグリーンに対する要求が強くなってくることから、今後さらに一般的な栽培技術になることと考えます。この技術は単に褐色だった芝生を緑に替えるだけでなく、直接、またはテレビを通じてウインターオーバーシードされた芝生を見て、"どうしてこんな時期に芝が緑なんだろう" "どうすればこんな風になるんだろう"というような興味を自然に持たせることができ、芝生とつきあう第一歩となるものと思います。

ウインターオーバーシードにおいて一番難しいとされるトランジッションは、農薬(除草剤)を使うことによってそれを容易にすることもできますが、『環境』を念頭においた場合には、本誌面で紹介したような品種特性としてトランジッションのしやすい草種、品種を使用することが、環境にやさしいウインターオーバーシードを可能にします。